

消化器内科

研修の特色

1. 消化器内科は消化管、肝、胆道、膵臓と扱う臓器が多数あり、疾患数も多く、検査、治療における手技も多数にあるため、学ぶべきことがきわめて多い科である。3年目専攻医となれば上級医の指導のもと、常時10例程度の主治医となるため、研修期間中に主な消化器疾患をだいたい経験可能である。初期研修医とは違い、患者さんに責任をもって治療にあたる。その中で各疾患にたいする診断、治療を身につける。
2. 当院は基本的に救急車を断らない病院である。3年目からは救急治療の主軸となって治療に当たる。多種多様な消化器系救急治療に対応できるよう指導していく。
3. 消化器の検査、治療は大きくわけて、内視鏡的な手技、カテーテル治療、腹部超音波検査とそれらの複合応用治療がある。当院では検査や治療を実際に施行できるように配慮しており、胃カメラモデルや大腸ファイバーモデルなどで、上級医の指導のもと、練習をつみ、実際に検査を行う。消化器内科希望であればそれぞれの治療を、後述の年次行動目標にそって、参加することで身につける。
4. 消化器内科の第2の柱として抗がん剤治療を行う。各科の院内レジメが整備されており、レジメに基づいて治療をしていくため、安全に施行可能である。
5. 緩和治療は、第3の柱となる治療である。当院には緩和内科専門医も在籍しているため、連携をとりながら治療にあたる。
6. 消化器内科志望の専門医には、4年目以降も症例を積み重ねて、本格的な手技治療を習得できるよう指導する。
7. 研修終了後は専門医資格取得をめざし、終了後は名古屋大学消化器内科学講座医局への入局斡旋、あるいは一定期間の継続勤務またはその関連病院で診療に従事することを予定する。

【取得資格】

当院は、日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本超音波学会、日本カプセル内視鏡学会の教育関連施設となっており、それぞれ認定医、専門医の受験の資格と習得を目指すことができる。

専攻医からのメッセージ

私は学生時代に見学に来て、先輩たちが優秀であった当院を研修先を選び、今は消化器内科医として勉強しつつ日々の臨床業務を行っております。消化器内科はどこも胃カメラや大腸カメラ、ERCPなどを行っていますが、当院でもたくさん検査を行っています。当院消化器内科の特徴は患者数が多く、スタッフが皆非常に優しいので丁寧な指導を受けられることと思います。また病院全体として若手が多く、他科も含めスタッフの仲も非常に良いです。また是非一度見学にいらしてください。